

部 局 経 営 方 針

平成 2 0 年度

薩摩川内市

部局名	総務部工事検査監	部局長名	落合 正浩
-----	----------	------	-------

部 局 の 経 営 資 源	当初予算	0.3 億円		
	構成人員	職員	嘱託	計
		1 1 人	人	1 1 人

部局の使命 (組織の存在価値)	<p>公正で競争性・透明性の高い入札契約と安全で高い品質の公共施設を提供する工事検査により、信用・評判のある薩摩川内市の実現に寄与する。</p>	組織目標像	<p>【施策の目標像】 公平公正で透明性及び競争性が高く、工物品質の確保と不良業者が排除される入札契約システムが運営されている。 高い品質管理とコスト縮減が達成され、安全で安心な公共施設を供用するため、厳正な工事成績評価システムが運営されている。</p> <p>【組織の目標像】 安全で品質の高い公共施設を提供するため、市民及び請負者と一体となって、速やかに課題解決ができる入札契約・工事管理能力のある職員・組織となっている。</p>
--------------------	--	-------	---

平成 2 0 年度の重点事項と目標達成に向けた主な取組内容

重点事項	具体的な成果目標(めざそう値)	具体的な取組内容	進捗状況(年度中間)	年度末の達成状況
契約検査の透明性及び競争性の確保	入札等監視委員会の設置(第三者委員会による市長への答申)	入札等監視委員会を 2 回 / 年開催 審議内容の公表(ホームページ) (入札及び契約の過程並びに契約の内容の透明性の確保)	委員を選定中 審議する入札案件を整理中	弁護士、公認会計士、税理士の 3 人に同委員を委嘱した。 平成 20 年度は 11 月、12 月、2 月の 3 回開催した。 一般競争入札及び指名競争入札分から審議案件を抽出して審議し、審議結果は市ホームページに掲載した。

部 局 経 営 方 針

薩摩川内市

平成 2 0 年度

<p>多様な入札方式の導入</p>	<p>電子入札システムの本格導入</p>	<p>【多様な入札方式で透明性と競争性の確保と品質を確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指名競争入札 条件付一般競争入札 簡易型総合評価方式 設計・施工一括発注方式 	<p>H20.8.6 に電子入札を開始（通常 7 工種）</p> <p>130 万円以上～3000 万円未満は全て市内業者が参加可能とし、約半分を工物品質評価型入札（過去 4 ヶ年の工事成績評定点の平均点を条件）とした。</p> <p>3000 万円以上は設計・施工一括か総合評価落札方式とし、現在、設計・施工一括方式を 3 件、簡易型総合評価方式 4 件実施。</p>	<p>平成 21 年 1 月から、「とび・土工」を加えた 8 工種を電子入札として拡大した。</p> <p>工物品質評価型入札を継続し、入札の公平性・透明性・競争性の確保に努めた。</p> <p>設計・施工一括方式を 3 件、簡易型総合評価方式を 5 件実施した。</p>
<p>公共調達の品質管理・施工管理の向上（第 4 段階：仕上げ）</p>	<p>受注者との連携・協働による工物品質と施工管理の向上</p> <p>（工事成績評定点の 3 ポイントアップ）</p> <p>（建設工事コストの 3 % ダウン）</p>	<p>【受注者・監督員との連携強化と監督員の技術力アップによる、工物品質と施工管理能力の向上を目指す】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出前講座の開催（受注者・職員） ワーキングの開催（監督員・請負者・契約検査課） 各種マニュアル・ガイドラインの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前協議マニュアル < 工法・工種・地域対策 > ・ 変更設計ガイドライン < 現場条件・使用材料・工法 > 設計段階からのコスト縮減の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ コスト縮減シートの義務付け < 工法・使用材料・維持管理を含めたライフサイクルコスト > ・ 設計審査の実施 ・ 段階確認一覧表の作成（義務化）による、監督業務のピンポイント化（時間的コスト縮減の実現） < 工事進捗に応じた監督頻度 > 	<p>入札制度改革説明会（受注者・職員）の受注者 24 回 469 社・593 名、職員 16 回・316 名出席。ワーキング 5 回実施。（電気工事部門）</p> <p>今後は、建築・土木・水道施設と拡大。</p> <p>変更設計ガイドラインは作成済み。</p> <p>コスト縮減シートを義務付け、設計審査時にヒアリングにより実施状況について確認</p> <p>受注者と監督員で団塊確認一覧表を作成し、ワンデイレスポンスを実践中。</p>	<p>電気のワーキングを 6 回、建築を 3 回実施し、土木など他の工種も実施予定。</p>

部 局 経 営 方 針

平成20年度

薩摩川内市

年度中間総括	<p>平成20・21年度入札参加資格申請（格付の廃止）に併せた、新しい入札制度導入に不測の時間と労力を要したため、入札等監視員会開始が遅くなっている。現在、委員を選定中である。今後は入札等監視委員会の意見を聞きながら入札制度の透明性・競争性・客観性が高まるようにしていきたい。</p> <p>入札制度改革を含めた説明会時に「技術系職員のスキル不足」について指摘された。今後は技術系職員向け研修会の充実、資格取得をサポートする仕組みの構築が重要となった。</p>
年度末総括	<p>入札等監視委員会については、11月13日に、弁護士、公認会計士、税理士の3名に同委員を委嘱した。第2回を12月19日、第3回を2月20日に開催し、審議結果は市ホームページに掲載済みである。</p> <p>技術職員のスキルアップを図るため、8月に国県職員に講師依頼し、講義と現場実地研修を行った。 （講義に62名、現場研修に46名の参加）</p> <p>なお、平成21年度も同様に、次の研修を行い、職員のスキルアップを図ることとした。</p> <ul style="list-style-type: none">・九州地方整備局に講師を依頼し、約50名の職員を対象に、2日間、工事検査研修を行う。・研修機関から講師を招聘し、約50名の職員を対象に、2日間、工事監理の進め方（土木・建築共通）の研修を行う。・（財）全国建設研修センターなどの研修機関に職員を計9名派遣し、一般土木、建築、森林土木、上水道等の専門的業務研修を行う。 <p>また、監督員研修なども逐次実施する予定である。</p>